

## 今月の御教え

大阪からお参りしたある信者が「金光様、大阪は広うございます。四区二郡に分かれておりますから」と申し上げたら「大阪は広いなあ。しかし、神から見ればけし粒よりは少し小さかろう」と仰せられた。

……「天地は語る」第十条……

### 解説

この御理解は、近藤藤守先生が、絹川という信者を伴い教祖広前に参拝し、多くの信徒から預かった御献費をお供えし、夫々の信徒達の名前を「大阪東区〇〇町の誰それ……」とお届けすると、教祖様が「大阪の誰それでよい」と言われ時、絹川さんが横から「大阪は広うございます。四区二郡に分かれておりますから」と言及した時の教祖様の返答であります。私はこの御教えに初めて触れた時「けし粒よりは小さかろう」との御言葉の意味が理解できませんでした。ところが、その後の平成七年に突如、大都市神戸を襲った『阪神淡路大震災』そうして平成二十三年の『東日本大震災』を始め、近年の数々の地震、台風による惨禍に、自然の猛威に対する人間の能力の限界を痛感させられた時、前述の教祖様の「神から見れば、けし粒よりは小さかろう」との意味がやっと分からせられました。即ち絹川さんは「教祖様は大阪という日本を代表する大都市の壮大さを御存じ無いのであるうから、御知らせ致さねば」との思いであったのでしようが、教祖様は、それに対して「いかに目を奪われるような壮大な建造物やインフラであっても、所詮、人の力による創造物は、大いなる天地を司る神様から見れば、脆く限界がある」ことを諭された御教えであることが分からされたのであります。故に私達は私達人間の命の根源である天地金乃神様を何時も離さぬようにして日々、御蔭を蒙って参りたいと存じます。